

宮崎・一ツ葉海岸から700m



宮崎県南部や曾於市で事業を展開する社会福祉法人スマイリング・パーク（本部・都城市、山田一久理事長）は13日、海に近い宮崎市阿波岐原町にある小規模多機能型居宅介護施設「ほへみの園ヒストリア前浜」の敷地内に、津波対策用のシェルターを設置した。写真右。最大30人が避難できる。

都城の社会福祉法人

介護施設に津波シェルター

メーカー担当者（左）からシェルターの説明を受ける「ほへみの園ヒストリア前浜」の職員。宮崎市阿波岐原町

南海トラフ地震に備え

同市で初の施設として4月開設したヒストリア前浜は、一ツ葉海岸から直線距離で700mしか離れていない平地にある。スマイリング・パークによると、現時点で津波浸水区域には指定されていないが、南海トラフ巨大地震では、10以



上の津波の来襲が予想されることから、対策としてシェルター設置を決めた。シェルターはタジマモーターコーポレーション（静岡県磐田市）製の全長約6m、重さ1・3トンの箱型。漁船などと同じ繊維強化プラスチック（FRP）で

できており、津波に流されても、水に浮いて中に避難した人を守る仕組み。太陽光で蓄電する非常用電源や簡易トイレも備える。設置費用は約1千万円。スマイリング・パークは13日、地域住民らにシェルターをお披露目した。猪野裕施設長は「利用者には要介護度の高い方も多く、勤務者が少ない夜間などの避難には不安があった。利用者にも働く人間にも安心感がある」と話した。タジマ社によると、宮崎県内のシェルター納入実績は4件目。介護施設では日南市の施設に続き2例目という。鹿児島県では、鹿児島市桜島の1企業が導入している。（深野修司）